

ことばを出す準備

2021年1月

眞鍋由比

今月のはと時計の特集テーマは「Girls, be ambitious! フレーフレー女の子」。入りたい本はまだありました。フェミニズムの視点で書かれた映画評、もっともっとシスターフッドの小説特集。

そしてこの本は議論をしましよのコーナーで入れたかったもの。せやろがいおじさんの著書は議論する際にわかりやすい言葉で反論を認めるスタイル、しかもユーモアを込めた例え方が絶品なのでわかりやすさを優先しました。(既に生徒に貸し出されていましたが)

『私たちにこそことばが必要だ フェミニストは黙らない』 イ・ミンギョン著
タバックス 2018

みなさんは女子校に通っているから学校での女性差別というものはあまり見ないかもしれない。一昨年、聖マリアンナ医科大学のように入試で女性だけ一律点数を下げた例がありました。就職でも生涯賃金でもどうしても男性の下になってしまう。学業成績ではむしろ上回ることが多いのに。不条理ですよね。

女性差別的な言動に出くわしたとき、どう対応するか、がアドバイスされている本です。女性差別=女性嫌悪についてあなたが男性に説明してあげなくてもいいのと繰り返し言われます。男性の機嫌をとってあげるためにあなたが苦労しなくちゃいけないわけがない。ちょっと理解を示すだけで、ほめられちゃう男性。

もちろん、議論は嫌で、男性に(善意で)やさしく教え諭しあげてもいい。ただ、あなたを尊重してくれない相手との対話を拒否する勇気を持つこと、これが大事。ていねいな説明が面倒なら追い払っていい。

大人より弱い立場にある子どもが、「ずるい言葉」にだまされないようにするためのヒントを伝える本『10代から知っておきたい あなたを閉じ込める「ずるい言葉」』森山至貴 WAVE出版 2020 を書いた森山さんのことばを引用します。

フェミニズムの主張は、「口の利き方がなっていない」とずっと批判されてきました。そして、フェミニズムの功績の大部分は、「口の利き方」の罠にはまらず、はっきりと物言う女性たちの奮闘に多くを負っています。だから、「正しくても受け入れてやらないからね」と事実上言っているような発言のずるさ、アンフェアさは、論理的に考えて明らかでなく、歴史的に証明されていることでもあるんです。(略) そもそもひどいことを言われた時に、相手を説得することが必要かを考えてもいいと思います。聞く耳を持たない人をわざわざ説得しなくてもいいんじゃないか。

もちろん、もし余裕があったら、相手に言い返してもよいと思います。売り言葉に買い言葉で「なにが正しいか分かってないから、言い方にこだわるような真似しかできないんでしょ？」などと言い返すことはできます。

そう、無理に対話することはないけれど、戦略的に言い返す方法がこの本にはタイプ別にシミュレーションして書かれています。

よく読みこんで、機会をうかがって実践していこう…そう思っている人がこの本を買ったから、わずか1年で4刷にもなっているんだと思います。女性の地位は昔から一直線に向上してきたわけではない。先人が頑張って得た権利を剥奪されることはあります。たかが言葉です。けれど武器にもなる。こういう本があることを知っておいてほしい。

